



伊吹山 1377m 9月15日

柴橋、伴野、市橋、水谷、中村、織田、(石原、青井)
▲いつものように名城公園に集合。初参加の女性2名を加え総勢8名が車2台に分乗り伊吹山



をめざして出発。高速道路は使わず、下道でのんびりの行程である。次第に晴れるとの予報、好天に恵まれた山行への期待が高まる。伊吹

山ドライブウェイ入り口で、山頂付近は霧、気温は19℃との表示。くねくねと曲がったドライブウェイを進み山頂付近を見上げると、山頂の辺りだけが雲に覆われている。駐車場に着くと、空気はひんやりとし、下界とこんなにも違うのかと驚くほど涼しい。スカイテラス脇から西登山道へ入り頂上を目指す。お花畑を両側に見ながら順調に歩を進め、30分ほどで山頂に到着。記念撮影後、早めの昼食をとり、伴野さんのホットコーヒーを堪能しながらよもやま話を楽しむ。東登山道から下山開始。しばらく進むと雲が途切れ、眼下に琵琶湖の遠景が出現。滑りやすい下り坂を慎重に進み40分ほどで駐車場に帰還。薬草ソフトを食べたり、野生のシカとご対面したりし帰路についた。つかの間の秋を味わうことができた山行であった。——記録：柴橋

秋色の上高地 と 三段紅葉



河童橋からの焼岳



早くも新雪を纏い、紅葉、快晴と。うと、見事な三段紅葉が見られる。数十年前、運よく一度だけ出会うことができた。上高地は観光客が押し寄せ、猿に熊までが出没し、かつての面影は薄れつつあるとも聞く。

▲山野が紅葉に染まる秋。穂高は9月にはナナカマドが色づき、10月には



中京NEWS 200号にやせて

▲当会の機関紙は「會報」として年1～2回刊行されていた。当初はガリ版印刷の冊子であった。今手元にあるのは平成17年5月発行の105号(83ページ)である。その巻頭言(故梶田会長)には、「様々な理由から会を去る者が出て、会員の減少は淋しい極みである」…と。登山の面白さは人それぞれである。当会は記録を大切にしてきた。50年史、75周年記念誌がそれである。

▲愛知岳連の60年史は、当会の50年史から多くを引用している。会報の出版が途切れ、それを補う形で「中京NEWS」が冲会員の手で創刊された。

(昭和63年9月15日発行)

当初は年2回程度の発行。創刊から200号までを一冊に取りまとめたいと思いつつ、無駄に数年を過ごしている不如意の日々である。—— 織田



中京 NEWS

創刊号

昭和63年9月15日発行
発行：中京山岳会 代表 尾崎 誠一
〒460 名古屋市中区新栄2丁目34-7 西052-241-5215

…… 山行・例会の案内 ……

昭和63年度後期の山行と例会を下記のように計画しているので、多数参加してください。なお、山行と例会は都合で日時や場所を都合で変更することがありますので、申し込みなく急に参加される方は、必ず、2-3日前に確認の連絡してください。申し込みをされた方には、変更した場合、事務局から連絡します。

これぞ、上高地が誇る究極の紅葉美。上高地を代表

10月例会

10月5日(水)19時30分より、酒井宅(尾西市明地森下27 西0586-68-0006)で開催します。